

## 令和5年度 認知症施策の取り組みについて

## 北名古屋西部北地域包括支援センター

内容
<p>総合相談等で、認知症の相談を受ける際にも「地域で生活する」という視点を持って、対応しています。今年度は、石橋地区と中之郷地区で、家族や知人の方からの認知症に関する相談が多くあり、両地区での認知症についての啓発が必要と考えました。</p> <p>① 「家族が認知症になり、なかなか外出しなくなった」という声を受け、地域支え合い推進員と共に社会資源を調べ、家族もご本人も一緒に外出できる場所を作れないか考えました。8月に中之郷地区におれんじスペースの啓発に出掛け、3か所おれんじスペースに登録されました。</p> <p>また、石橋地区の喫茶店がおれんじスペースに登録し、不定期ではありますが認知症カフェを開催できることとなりました（3/13開催予定）。</p> <p>② 「知人に物忘れがあり、どうやって関わっていけばいいか教えてほしい」との相談がありました。すぐに、認知症サポーター養成講座の企画をし、石橋地区、中之郷地区のどちらからも近い陽だまりハウスで開催しました。</p> <p>③ つなぎ畑カフェでは、認知症の方の「働きたい」「やりがいがある」という声を、「カフェの店員」「作品展」という形で実現するお手伝いをしました。</p>
成果
<p>一人と関わることで見えてきたニーズから地域の課題を把握し、できることはないか、何があると良いのか考えて取り組むことで、居場所を増やすことができました。少しずつですが、認知症カフェや地域のサロンで、認知症の方もそうでない方もまじりあって自然に笑顔で話をされている光景が増えてきました。一人の言葉を拾い上げ、地域づくりにつなげることができました。</p>